

## 【日植防シンポジウムから】

# 外来カミキリムシの発生状況と防除対策への取り組み

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 うえ ち な み  
植物防疫研究部門

## はじめに

貿易や交通の発展により、外来生物が日本へやって来る機会がますます増加している。外来生物の侵入により、作物の減収や品質低下などの農林業への影響、あるいは生存競争や交雑による在来の生物への環境的な影響、そして、人間生活への影響が懸念されている。

カミキリムシについても同様で、これまで、様々な種が世界各地に持ち込まれ、被害をもたらしている。これらは苗木や丸太材、あるいは梱包材やパレット材などとともに移動した可能性が推察されている。なお、現在は、植物検疫措置に関する国際基準 ISPM No.15「国際

貿易における木材こん包材の規則」があり、木材梱包材の輸出国での消毒、表示等が要求されている。

カミキリムシが生きた木に寄生する一次性の種である場合、木の成長の阻害や樹勢低下などの被害をもたらす。樹勢低下は次年度以降の生産性にも影響し、枯死をもたらすこともある。

外来カミキリムシの代表的な加害事例について、砂村(2023)で世界の代表的なカミキリムシがリストアップされている(表-1)。代表的な加害例として、ツヤハダゴマダラカミキリ、ゴマダラカミキリ、ヒメスギカミキリ、マルクビケマダラカミキリといったアジア由来の種が北米やヨーロッパへ侵入している例が多いが、北米原

表-1 外来カミキリムシによる代表的な加害事例(砂村, 2023より)

定着	種名	原産地	侵入地	主な寄主
1990年代以前	<i>Phoracantha semipunctata</i>	オーストラリア	世界各地	ユーカリ
	<i>Phoracantha recurva</i>	オーストラリア	世界各地	ユーカリ
1990年代～	ツヤハダゴマダラカミキリ	アジア	北米, ヨーロッパ	各種広葉樹
	ゴマダラカミキリ	アジア	北米, ヨーロッパ	各種広葉樹
	<i>Tetropium fuscum</i>	ユーラシア	北米	トウヒ
	ヒメスギカミキリ	アジア	北米	スギ, ヒノキ, マツ
2000年代～	マルクビケマダラカミキリ	アジア	北米	各種広葉樹, 針葉樹
	<i>Saperda candida</i>	北米	ヨーロッパ, アジア	バラ科樹木
	<i>Arhopalus rusticus</i>	ヨーロッパ	南米	マツ, トウヒ
	<i>Arhopalus syriacus</i>	ヨーロッパ	南米	マツ, トウヒ
2010年代～	クビアカツヤカミキリ	アジア	ヨーロッパ, 日本	バラ科樹木
	トラカミキリ	アジア	ヨーロッパ	クワ
	ツヤハダゴマダラカミキリ	アジア	日本	各種広葉樹
	サビイロクワカミキリ	アジア	日本	マメ科樹木

赤字で示したのは、イノベ事業の研究課題で扱っている種。

Current Status and Efforts Towards the Control of Invasive Cerambycid Beetles in Japan. By Nami Uechi

(キーワード: クビアカツヤカミキリ, ツヤハダゴマダラカミキリ, サビイロクワカミキリ, 総合対策, イノベ事業)